

2019年度
地球環境『自然学』講座
第17回

テーマ
伝統回帰の思想：森とともに生きる

講 師

哲学者
内山 節 先生

2020年1月18日
認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

内山 節（うちやま たかし）



1. 経歴

1950年東京生まれ。哲学者。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授などを歴任。一九七〇年代に入った頃から東京と群馬県の山村上野村との二重暮らしをしている

2. 著書

『内山 節著作集』（全15巻、農文協）、『〈いのち〉の場所』（岩波書店）、『修験道という生き方』（新潮選書）、『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』（講談社現代新書）、最新刊に『内山 節と読む日本と世界の古典50冊』（農文協）がある

1. はじめに
—群馬県上野村について
2. 上野村がつくりだしてきたもの
—森の手入れ、製材、木工の生産、木質系ペレットの生産、ペレット発電、
茸の生産、自然と村の雰囲気を活かした観光
—持続可能な地域労働体系をつくる
—共同体的村と地域労働体系
3. これからの地域づくりと伝統回帰
—共同体的村を守る
—地域資源をエネルギーとして利用した時代に戻る
—伝統回帰を実現するために新しい仕組み、技術を導入する
4. 今日の社会改革運動と伝統回帰
—自然とともに生きる
—コミュニティ＝共同体をつくる試み
—コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス
—健全な移動性をもち社会
5. 持続可能な関係性を求めて
—自然との関係性、人々との関係性
—「外部」の人々との関係性
—個人の時代から関係性の時代へ
—その意味でもすすむ伝統回帰
6. まとめに代えて
—上野村のミッション
 - ・ 自然とともに暮らす地域の創造、持続可能な地域のあり方を提示する、
小さいことが有利な時代を迎えていることを立証する